

令和5年度 学校評価報告書

| | |
|-----|-------|
| 学校名 | 八景中学校 |
|-----|-------|

1 学校教育目標

こころ豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成
自ら学び 自ら考え 自ら行動

2 今年度の学校重点目標

- (1) 命と人権の大切さを基盤にした、「豊かな心」を育成する教育を推進する。
- (2) 自主的・対話的で深い学びによる確かな学力の育成を推進する。
- (3) 生徒の声を受け止め、理解に努める生徒指導を推進する。
- (4) 特別支援教育を根幹に据え、個に応じた教育を推進する。
- (5) 自己実現をめざした進路指導を推進する。
- (6) 家庭や地域と連携した信頼と魅力のある学校づくりを推進する。
- (7) 働きがいのある職場づくりを推進する。

3 総合的な自己評価

学校教育目標やめざす生徒像・学校像の実現に向け、「生徒たちが自尊感情を高め、命と人権を大切に考える」「教職員が危機管理に努める、生徒との信頼関係を築く」「地域の学校として、信頼され応援される学校になる」ことに意識して取り組んできた。

生徒は真面目に学習に取り組み、落ち着いて学校生活を送っている。生徒の学校評価アンケート結果は、総合的に見て概ね良好である。また、保護者の評価では、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」とする肯定的評価が、大半の項目において8割を超えている。一方、肯定的評価が7割に満たない項目が、「学習に関すること」に集中している。次年度は、全教職員でより一層の生徒理解に努め、一人ひとりの生徒が活躍できる場と機会を設けることや、わかる授業と基礎基本の充実等に努めていかなければならない。

生徒・保護者・教職員ともに、地域との連携に関する項目についての結果が低調であった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより校外での活動は格段に増加している。しかし、その活動に参加しているのは一部の生徒であり、学校全体としての取組が求められるところである。

今後、地域との連携を強化した活動を通じて生徒の自己有用感を高め、学習意欲向上につなげられるような「学校改革」を具現化し、次世代へ向けて新たなスタートを切れるよう取り組んでいきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高く、学校の取り組みが充実していると感じた。9割に満たなかった項目においても、保護者および生徒の評価は「施設設備」「地域行事」の項目以外は概ね良好な結果が出ている。「施設設備」については、安心・安全な学習環境づくりを第一に考え、対応を検討願う。「地域行事」については、中学生が参加する行事を増やしていき、学校と地域とが連携した取組を充実して欲しい。その他にも、アンケートの中にある保護者からの自由記述の内容についても、一つひとつの意見を大切にしたい対応をお願いする。

学校においては、人員配置に対する問題が毎年少なからず挙がっているが、少しずつでも改善の方向へ向かっていることは評価したい。生徒一人ひとりへの関りが増え、より一層の生徒理解に繋がり、学習支援の充実が図られることを期待する。

今年度も昨年度に引き続き『ふれあい美化活動』に生徒が参加した。昨年度よりも参加人数が増加し、継続した取組の成果であり、地域からの評価も高かった。

5 評価結果

| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 |
|-------|--|---|---|---|
| 分野・領域 | 評価項目(取組内容) | 評価結果及び分析 | 改善の方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
| 学習指導 | わかる喜びと達成感を実感できる学習指導の工夫と授業改善により、基礎基本の定着と学びに向かう力の育成に努める。 | ・生徒アンケートでは、授業はわかりやすく、意欲的に取り組んでいるという肯定的な回答が多い反面、家庭学習の取組には課題を残す結果となっている。 ・兵庫型学習システムを国語、英語、数学で導入し、少人数で個に応じた指導を行った。 ・ドリルパークを活用し基礎基本の定着を図った。 | ・個々に目標を持って、主体的に学んでいけるよう学習指導を進めていく。スモールステップで実現可能な目標が持てるようアドバイスをする。 ・学習相談の在り方を工夫し、個に応じた指導や学習内容の精選を検討する。 ・家庭学習が定着するように、課題提示の工夫を行う。 | ・基礎学力を向上させ、家庭学習の定着を図るために、これからも引き続き個に応じた支援が必要に感じる。 ・肯定的な評価は高いものがあるが、欠席者に対する学習支援や不登校生等が安心できる居場所作りをお願いする。 また、相談室の運営において、学校支援ボランティア等の活用も検討をお願いする。 |
| | キャリア教育の充実、進路情報の提供、社会参画する機会づくりにより、自尊感情を高め、自己実現を図る。 | ・保護者の評価において、3年生は肯定的評価が高いが、1, 2年生の保護者評価が低くなっている。これは、キャリア教育と進路指導について十分な理解を得られていないことによるものであると考えられる。 | ・3年生に配布している「進路通信」のHP掲載を継続する。また、1, 2年生の保護者にも十分周知してもらえらるよう広報する。 ・1年生より、働くことや学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設ける等、体験活動や社会に触れる機会の充実を図る。 | ・職場体験などの体験活動では、事前・事後の指導において、地域で活動している方々と連携した活動を取り入れ、キャリア教育の充実をお願いする。 |

| | | | | |
|---------------|--|---|--|---|
| | | <p>・校区幼小中学校で12年間を見据えて、「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有し、連携を積極的に図った。</p> | <p>・キャリア教育の意義とその学習内容について情報発信を丁寧に行っていく。また、「キャリアパスポート」を核として「キャリア教育」の研究を校区内の小中学校で連携して推進する。</p> | |
| 生徒指導 いじめ防止 | <p>教育相談の充実を図り、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導とともに、不登校生徒や発達に係る支援の充実に取り組む。</p> | <p>・生徒指導について、肯定的評価の割合が生徒は90パーセントを超え、保護者には一定の理解を得ている。教育相談についても、生徒は95パーセント、保護者は80パーセントを超える。</p> <p>・教育相談の時間をできる限り確保し、心のケアの充実を図った。</p> | <p>・「共感的理解ができているつもり」に陥らないよう、生徒の意識や行動の変化を的確に把握し、カウンセリングマインドを大切にする。また、一人ひとりの個を尊重した支える生徒指導を行うため、さらに研修を深める。</p> <p>・学級活動や道徳教育の充実等により、生徒一人ひとりが自己有用感を得られるような機会を増やす。</p> <p>・終礼後の5分を大切にしていって、いつでも相談しやすい環境の構築を図る。</p> <p>・SCやSSW等の専門的見地からの意見を参考に、不登校生徒や支援の必要な生徒へ丁寧に関わっていく。</p> | <p>・不登校生徒への対応について、SCやSSW、子どもサポーター等人員配置が増える予定であることは、大変有意義に感じる。今後も生徒理解に一層努めてもらいたい。</p> |
| | <p>本校「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。</p> | <p>・「生徒アンケート」「保護者アンケート」とともに、いじめ問題について肯定的評価の割合が高かった。</p> <p>・人をばかにしたりからかったりという「いじめ行為」をしていないと回答した生徒の割合が伸び悩んでいることが課題である。</p> | <p>・「いじめを絶対に許さない学校」として、いじめ対応チームを中心に、計画的かつ組織的に対応できるように尽力する。</p> <p>・生徒との信頼関係を基にした相談しやすい環境の構築をめざし、聞くことと共感の姿勢を心がけて関わっていく。そのためにも、教師は「公平・公正」であるという姿を、全力で示していく。</p> | <p>・肯定的評価が低い原因が何であるかも当然大切ではあるが、まずは誰もが過ごしやすい空間を作っていって欲しい。</p> <p>・生徒の声を聞き逃さないようにし、教職員間の情報共有を徹底する。</p> <p>・「いじめ行為」の項目で聞きたいことが評価できるような文言にするなどの工夫が必要である。</p> |
| 研修 (資質向上) | <p>特別支援教育の視点を生かし、個に応じた指導の工夫、すべての生徒にわかりやすい授業改善に取り組む。</p> | <p>・互見授業を実施して、授業改善を図っている。自主的にすべての教員が相互に授業公開を行い、授業力を高めることができた。</p> <p>・教職員評価の結果、ICT機器の活用率はたいへん高い。学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や教材開発について、校内研究会等を通して研究と修養に努めている。</p> | <p>・主体的、対話的で深い学びにもつながるICT活用に係る教員のスキルに格差があるので、個別の研修等を計画し実践的指導力の向上を図っていく。</p> <p>・時間的なゆとりをつくり、振り返りができる機会を増やす。</p> <p>・少人数のグループ学習を活用し、学び合い、高め合う雰囲気作りを行う。</p> <p>・家庭学習の定着や不登校生徒の学習支援に向けての研修を充実させる。</p> | <p>・学校でのICTを活用した授業だけでなく、家庭学習においてもタブレットを活用した学習なども積極的に導入することが、家庭学習の習慣化には必要と考える。内容の精選も含め、適切な課題と、評価が必要と考える。</p> <p>・タブレットを活用した不登校生徒への支援などもできるようになればよいと期待している。</p> |
| | <p>研修・研究体制の充実により、人権感覚・危機管理能力の向上、専門性と実践的指導力、課題対応能力を高める。</p> | <p>・「義務教育9年間を通して系統的・継続的な主体的、対話的な深い学び」を研究テーマとして生徒につけたい力を検討して、組織的に取り組んだ。</p> | <p>・中学校卒業時に身につけさせたい力を校区小学校とも共有し、9か年計画で指導していく。そのためにも、小中連携を充実させて、小中一貫教育の研究を推進する。また、今年度実施した校区内の</p> | <p>・小中連携だけではなく、地域との連携を強化していくことが必要であろう。様々な取組に保護者や地域の協力が得られやすい工夫がなくてはならない。</p> |

| | | | | |
|------------------|--|---|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会で情報共有を図り、SC や SSW 等とも連携し、支援の必要な生徒に対してより丁寧な対応ができるよう努めている。 | 幼小中の教員を対象とした全体研修を継続する。 | |
| 地域と連携した開かれた学校づくり | 教育活動の公開や学校ホームページの更新など、積極的な情報発信を行い、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの「情報発信」では、保護者の肯定的評価が 95 パーセントに迫る高い評価を得た。 ・HP のみならず、通信やメール配信とともに、積極的な情報発信を続けている。 ・各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや学校だよりを効果的に活用し、適時適切な情報発信を心がけ、さらに充実させていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりなどの情報がホームページなどで随時更新されていることは今後も継続して取組をお願いする。学校だよりなど保護者に確実に手に渡ることができ取組には改善を要する。 |
| | 生徒が地域で活動する機会の充実や地域の教育力を生かした取組により、連携と協働の学校づくりを進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事が再開され、双方向の行き来（生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に）ができるようになった。 ・『地域ふれあい美化活動』の取組は、地域でも賞賛された。 ・各地域部会での『中学生の発表』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力やボランティアに感謝するとともに、生徒が地域に出かける機会を多くつくる。 ・昨年度から取り組んでいる『地域ふれあい美化活動』のように、学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。 ・地域の方が自由に来校できればよいが、地理的にも物理的にも難しい状況である。それにかわる取組を、学校運営協議会と模索していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・『地域ふれあい美化活動』の取組を継続し、参加した生徒も増加した。学校からの発信があったことが参加数の増加につながった。今後も学校と地域が連携した活動を望む。 ・学校と地域の連携を強化するために、地域の方が学校へ行きやすい行事や取組等を積極的に行い、その仕組み作りをする必要がある。 |